

## 米国 耐久財受注は堅調さを保つ(06年5月耐久財受注)

発表日：06年6月23日（金）

～設備投資は年後半に鈍化の可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [sei\\_ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:sei_ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

耐久財受注 (Advance Report on Durable Goods Manufacturers' Shipments and Orders)

	出荷				受注				在庫			
	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器
05/1Q	+1.5	+2.2	(+11.6)	+3.5	+0.8	+3.1	(+12.9)	+5.7	+2.6	+2.4	+1.7	
05/2Q	+0.9	+0.7	(+7.9)	+1.2	+5.4	+1.2	(+5.0)	+1.6	▲0.3	▲0.1	+0.0	
05/3Q	+1.2	+1.4	(+6.3)	+1.5	▲0.2	+2.3	(+9.5)	+1.5	+0.4	+0.5	+1.9	
05/4Q	+3.7	+3.4	(+7.9)	+3.1	+7.0	+2.4	(+10.0)	+2.4	+1.1	+0.9	+0.3	
06/1Q	+1.2	+2.8	(+8.5)	+2.5	▲1.5	+2.8	(+9.0)	+3.9	+0.9	+1.5	+1.5	
05/05	+0.8	+0.6	(+8.8)	+1.8	+7.0	+1.1	(+7.9)	▲0.1	+0.2	+0.2	+0.1	
05/06	▲0.2	▲0.1	(+7.6)	▲0.8	+1.2	+2.5	(+11.4)	+2.9	▲0.6	▲0.5	▲0.2	
05/07	▲0.6	▲0.2	(+5.0)	+0.2	▲5.5	▲3.1	(+7.2)	▲2.6	+0.7	+0.7	+1.4	
05/08	+2.7	+2.1	(+6.6)	+2.2	+4.5	+5.2	(+10.8)	+4.3	▲0.3	▲0.0	+0.4	
05/09	▲0.1	+0.3	(+7.1)	▲0.7	▲1.6	+0.1	(+8.5)	▲1.6	▲0.0	▲0.1	+0.2	
05/10	+1.5	+1.3	(+8.2)	+1.9	+3.2	+0.2	(+10.5)	+1.5	+0.5	+0.2	▲0.1	
05/11	+0.4	+0.6	(+7.8)	+0.4	+4.4	+0.3	(+9.6)	▲0.2	+0.6	+0.7	+0.9	
05/12	+3.2	+2.0	(+7.7)	+1.9	+0.9	+0.6	(+7.9)	+2.1	▲0.1	▲0.0	▲0.5	
06/01	▲1.3	+1.1	(+7.9)	+1.1	▲7.6	+1.9	(+9.5)	+2.1	+0.4	+0.8	+0.7	
06/02	+0.3	+0.3	(+9.2)	▲0.9	+3.6	▲1.2	(+7.1)	▲1.0	▲0.5	▲0.3	+0.1	
06/03	+0.3	▲0.2	(+8.4)	+2.0	+6.0	+3.4	(+10.5)	+3.4	+1.0	+1.0	+0.7	
06/04	▲1.2	▲0.3	(+7.7)	+0.8	▲4.7	▲1.0	(+10.3)	▲1.9	+1.1	+1.0	+0.5	
06/05	+2.6	+1.8	(+9.0)	+0.1	▲0.3	+0.7	(+9.8)	+1.0	+0.4	+0.3	▲0.1	

(出所) 商務省

(注) 四半期は前期比、月次は前月比伸び率。 () 内は季節調整値の前年比。

### 耐久財受注が前月比 ▲0.3%、除く輸送機械は同+0.7%

06年5月の耐久財受注は、前月比▲0.3%と市場予想の同+0.4%に反し2ヵ月連続のマイナスとなった。変動の大きい輸送機器が航空機の減少によって押し下げられた。

耐久財受注の基調を示す輸送機器を除いた耐久財受注は前月比+0.7%と市場予想の同+0.6%を小幅上回った。一次金属、一般機械が増加し、コンピューター・電子機器、輸送機器はマイナス幅を縮小した。基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+11.5%（前月+9.2%）と高い伸びを維持しており、耐久財受注は堅調さを維持していると判断される。家計部門の減速が続く一方、企業部門の堅調が持続している。

### 耐久財生産は、目先拡大ペース鈍化

耐久財在庫が前月比+0.4%と鈍化したが、耐久財出荷が同+2.6%と増加に転じたことから、耐久財在庫率は1.320ヵ月（前月1.350ヵ月）と小幅低下し低い水準を維持している。一方、耐久財出荷がプラスに転じたものの、耐久財受注がマイナスとなったことから、耐久財受注残は同+0.6%（前月同+1.5%）とプラス幅を縮小しており6月の耐久財生産の拡大ペース鈍化が予想される。

### 一次金属、一般機械が拡大

業種別の受注動向をみると、月次での変動が大きいものの、自動車を除く耐久財関連産業は堅調さを維持している。一次金属、一般機械が増加した一方、加工金属、電気機

械、コンピューター・電子機器、輸送機械が減少した。コンピューター・電子機器では、通信設備が前月比+5.9%（前月同▲28.7%）、コンピューター・同関連製品が同+1.9%（同▲3.7%）と増加に転じたため、全体では同▲1.1%（同▲10.8%）とマイナス幅が縮小した。輸送機器は、同▲2.6%（同▲12.7%）とマイナス幅が縮小した。自動車・同部品は同+2.5%（同▲2.0%）と増加に転じ、非国防航空機・同部品が同▲17.9%（同▲29.7%）と減少幅が縮小した。

### **機械・ソフトウェア投資は4～6月期も堅調さを維持するものの、年後半に鈍化する公算**

次に設備投資関連の指標をみると、機械・ソフトウェア投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）は、5月に前月比+0.1%（前月同+0.8%）とプラス幅が縮小した。4、5月平均では1～3月期対比年率+7.8%と1～3月期の前期比年率+10.6%から鈍化しているものの、高い伸びを維持していること等から、4～6月期の機械・ソフトウェア投資は同+10%程度への小幅鈍化にとどまる可能性が高い（1～3月期前期比年率+13.8%）。

機械・ソフトウェア投資の先行指標である非国防資本財受注（除く航空機）は、5月に前月比+1.0%（4月同▲1.9%）とプラスに転じた。4、5月平均では、1～3月期対比年率+2.2%と1～3月期の前期比年率+16.7%から急減しており、7～9月期の機械・ソフトウェア投資は減速すると予想される。

### **2006年4～6月期に個人消費は拡大ペース鈍化**

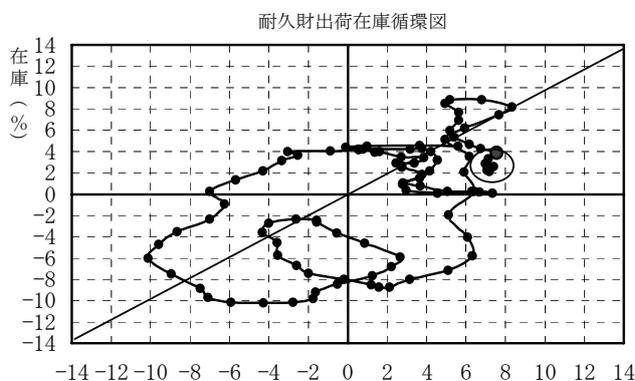
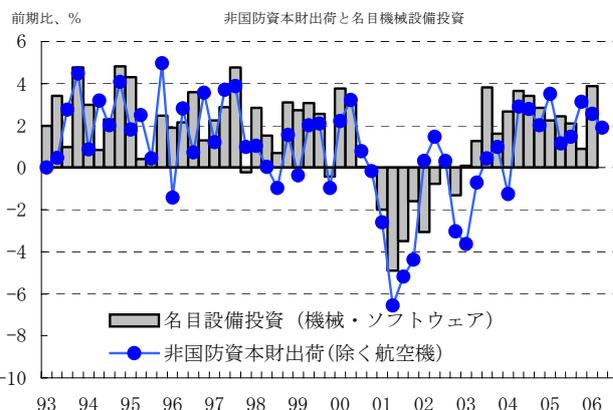
最後に、耐久財受注に影響を与える景気動向を需要項目別にみる。4～6月期の個人消費は、雇用・所得の拡大が続くものの、暖冬効果の剥落、エネルギー価格の上昇を背景に前期比年率+2%台前半に鈍化すると予想される。一方、住宅部門では、利上げに伴うモーゲージ金利の上昇によって住宅販売は減少傾向を辿ると見込まれる。このため、住宅着工件数は4～6月期以降減少基調が明確化するとみられ、住宅投資もマイナスに転じる公算が大きい。このように、4～6月期に家計部門は鈍化が予想される。

### **輸送機器を除く耐久財受注は4～6月期以降拡大ペースが鈍化する公算**

企業部門では、設備投資は堅調な成長の持続によって期待成長率が高まるなか、①コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、②稼働率の上昇、③オフィスビル空室率の低下、④コンピューターの更新投資や規制緩和に伴う通信業での光ファイバー投資の増加等によって投資需要は強い。また、資金面では業績の拡大持続によるキャッシュフローの拡大、信用スプレッドの縮小等投資を行い易い環境にあり、設備投資は4～6月期も好調を維持するとみられる。

在庫投資では、商品価格の上昇が続くもと投入コストの上昇によってコスト削減圧力が強いことから、企業が在庫の積み増しに慎重な姿勢を維持すると見られる。しかし、国内需要の堅調に加え、海外需要の加速により4～6月期には在庫の拡大ペースが加速すると予想される。

以上のように、4～6月期には景気減速が予想される。輸送機器を除く耐久財受注は、商品価格の高止まりによって下支えされるものの、需要の鈍化を背景に拡大ペースが減速すると予想される。一方、耐久財受注は、中国、インド、アラブ諸国等での航空機需要の拡大が続くとみられることから、堅調さを維持する公算が大きい。



(注) 3カ月移動平均。前年比

出荷 (%)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。